

## 公益財団法人SOMPO環境財団 2023年度事業報告

### I 環境財団の4つの事業

1. 人材育成事業～CSOラーニング制度、CSOによる人材育成事業等への助成
2. 啓発普及事業～市民のための環境公開講座、各種シンポジウム・研究会への協賛
3. 環境保全プロジェクト助成
4. 学術研究助成

各事業のあらまきは次のとおりです。

#### 1. 環境保全活動に活躍する人材の育成支援（※市民社会組織、NPO、NGOを包含する概念）

##### (1) 「CSOラーニング制度」の実施

大学生・大学院生に対する環境CSOでの活動による人材育成、及びCSOに対する支援を目的とした本プログラムは今年度で24年目となりました。昨年5月実施の感染症法上の分類の見直しを踏まえ、感染対策に配慮しつつ、対面とテレワークを併用したインターンシップの形が定着しつつあります。

派遣先は、新たに募集を開始した福岡地区の2団体をあわせ36団体（前年33団体）になりました。また、CSOと学生のニーズのミスマッチを防止するため、個別にCSOと業務内容を丁寧に打合せ、CSO紹介動画を作成しホームページに掲載するなど工夫を凝らした募集や個別に大学へ情宣活動などを行い、110名（前年87名）の応募を集めることができました。オンライン面接を経て合計59名（前年55名）を選考し、8か月間のインターン派遣をスタートしました。

（単位：人）

地区	応募者数		合格者数		修了者数	
	2023年	2022年	2023年	2022年	2023年	2022年
関東	72	53	34	32	32	31
関西	24	22	12	14	11	12
愛知	3	5	3	4	3	3
宮城	8	7	8	5	8	5
福岡	3	—	2	—	2	—
合計	110	87	59	55	56	51

ラーニング生同士の交流活動については、8月30日から9月1日までの3日間にわたり、夏期合宿を4年振りに対面で開催しました。

NPO、行政、企業など多様な主体の環境問題への取り組みを学び、気候変動問題の解決や生物多様性保全に向けた行動変容のきっかけとすることを目的とし、西澤理事長からは「サステナビリティを巡る国際潮流と日本経済界の課題」と題した講演を行い、「日本のネイチャーポジティブを牽引する人材になって欲しい」との激励のメッセージを贈り、インターン生との質疑応答を行いました。

その他、公益財団法人日本自然保護協会（NACS-J）の高川OECMタスクフォース室長を講師としてお招きし、「生物多様性保全が求められるサイトと企業を結び付けるプロジェクト案

作成」のワークショップや、昨年度の修了生（チューター）による自己理解のワークショップ、損保ジャパンが開発した「The Action! SDGs カードゲーム」などを実施しました。これらのプログラムを通じて、社会課題解決のための多様なアプローチを学ぶ機会を提供した後は、「社会課題の解決に向け私たちにできることは？」をテーマに、インターン期間の後半で取組むミニプロジェクトに向けたグループワークを行いました。

なお、2日目に受講者1名の新型コロナウイルス罹患が判明したため、修了生との交流会の開催を中止し、感染拡大防止対策および日程を短縮などの対応を行っています。

合宿を通じて、学生同士で意見交換できる機会を増やし、お互いのインターン活動の情報を共有することで、活動の目的の再認識や今後のインターンシップ活動のモチベーションの向上など貴重な機会となりました。

毎月一回開催する地区別の定例会については、6月に関東、関西地区では4年振りに対面でキックオフミーティングを開催しました。その後は学生の利便性を考慮し、関東とそれ以外の4地区（関西・愛知・宮城・福岡）の2グループに分けたオンライン実施となりました。後半の期間では学生が少人数のグループで関心分野についての企画を行う「ミニプロジェクト」を進め、生物多様性保全のガイド本（いきものハンドブック）作成や昨年へ続き地元スーパーと連携したフードロス啓発イベントやSNSでの情報発信など、多くの学生が趣向を凝らした環境活動の実践に取り組んでくれました。

また、8月の合宿時に日本・インドネシアのインターン生を繋ぎオンラインでの交流会を開催したうえで、9月下旬には例年どおりオンライン会議も実施しました。事前に相手国の現状や課題に関する勉強会を実施し、学生たちはそれぞれの国の環境課題を知ったうえで、次世代を担う若者としてどう取り組むべきかなど、英語も交えて意見交換を行いました。参加した学生は「国は違っても、同じように環境問題を解決しようと取り組んでいる同世代の仲間がいることに励まされた」など、良い刺激を受けていました。

8月の合宿時に中止となった修了生との交流会を11月にオンラインで実施しました。多様なセクターで活躍をする修了生に、現役生から当時のインターン活動の様子や現在の就職先を選択した経緯、業務内容など幅広い質問が投げかけられ、修了生からは真摯な回答やアドバイスをしました。現役インターン生からも今後のインターン活動や就職先を考える上で大変貴重な機会となったとの感想が寄せられています。

インターン活動が修了した2月には、ラーニング生それぞれが、制度に参加したことで得られた自分の経験・学び・課題をまとめた「修了レポート」を作成しています。

今年度で制度の修了生は56名増え、累計で1,332名となりました。財団としては修了生の活躍などの発信を行うとともに、オンラインなども活用しながら接点づくりを支援し、将来に向けた修了生の「繋がり」の強化を図っていきます。

<派遣先CSOと派遣学生数>

CSO名	人数
<b>(関東地区)</b>	
1 アサザ基金	2
2 ECOPLUS	2
3 オイスカ	2
4 オーシャンファミリー	2
5 環境エネルギー政策研究所	2
6 環境文明21	1
7 共存の森ネットワーク	1
8 国際自然大学校	1
9 CDP-Worldwide-Japan	2
10 自然環境復元協会	1
11 JUON(樹恩)NETWORK	2
12 樹木・環境ネットワーク協会	1
13 新宿環境活動ネット	3
14 WWFジャパン	5
15 日本環境教育フォーラム(JEEF)	3
16 日本環境協会	1
17 日本自然保護協会	1
18 パブリックリソース財団	1
19 森づくりフォーラム	1
<b>関東地区計</b>	<b>34</b>
<b>(愛知地区)</b>	
1 オイスカ中部研修センター	2
2 藤前干潟を守る会	1
<b>愛知地区計</b>	<b>3</b>

CSO名	人数
<b>(関西地区)</b>	
1 愛のまちエコ倶楽部	1
2 大阪自然環境保全協会	1
3 環境市民	2
4 気候ネットワーク	2
5 里山保全活動団体 遊林会	1
6 地球環境市民会議(CASA)	2
7 日本ウミガメ協議会	1
8 びわこ豊稔の郷	2
<b>関西地区計</b>	<b>12</b>
<b>(宮城地区)</b>	
1 オイスカ名取事務所	1
2 環境会議所東北	2
3 冒険あそび場日 せんだい・みやぎネットワーク	2
4 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)	1
5 杜の伝言板ゆるる	2
<b>宮城地区計</b>	<b>8</b>
<b>(福岡地区)</b>	
1 グリーンシティ福岡	1
2 山村塾	1
<b>宮城地区計</b>	<b>2</b>
<b>総合計</b>	<b>59</b>

次年度については、引き続き、対面での活動と並行してオンラインも活用しながら行い、学生同士のプロジェクトなどより多くの交流機会を持てるように工夫を織り込みながら実施して参ります。

#### (インドネシアでのCSOラーニング)

2019年にスタートしたインドネシアでのCSOラーニング制度「NGO Learning Internship Program in Indonesia」は今年度5期目を迎え、2023年2月から8か月間、25名(第4期20名)の学生がジャカルタ、ボゴール近郊のNGO9団体でインターンを行いました。対面やオンライン、テレワークなどを活用したインターン活動を行い、定例会も一部対面開催されるなど、ハイブリッドでの運営となりました。今年度は4年振りにワークキャンプを実施し、制度に参加したNGO団体の代表から環境保護に関する講習を受けるなど、同期の仲間との交流・連携を深めました。

2023年10月24日、環境財団、環境林業省、NGO関係者が参加して第5期学生の修了式を開催しました。4年振りに現地に参加をした西脇専務理事より「この制度で得た経験をぜひ周囲の人に広げて欲しい。そして、この経験が皆さん自身の視野を広げ、新たな世界への扉を開くきっかけとなることを願っている。」との期待と励ましの言葉を贈りました。また、環境林業省 Jo 局長からは「インドネシアでは極端な天候による災害が続いており、気候変動が身に迫る危機となっており、若い世代が環境へのアクションを起こすことは非常に大きな意義がある。自分の夢を実現するとともに、修了生同士の絆を大切にし、その繋がりを大きな力に変えていてもらいたい。」との言葉が贈られました。

また、本制度の運営に協力いただいている Sompo Insurance Indonesia (SII)では、修了生

を対象とした環境プロジェクトへの助成制度 (Sompo Alumni Idea Fund) の継続が決定され、インターン期間終了後にも参加学生が行う環境保全活動を支援する体制が築かれています。

なお、インドネシアでは第5期の25名を含め、これまでの修了生が100名を超えました(103名)。

第6期は221名(第5期203名)の応募があり、2024年2月27日にキックオフ式典を行い、選抜された学生25名が11のNGOでインターン活動をスタートしています。オンラインも活用しながら、定例会などの交流機会を充実させ、学生の指導を行ってまいります。キックオフ式典では来賓の環境林業省 Jo 局長から、「このプログラムは保険会社が実施し、インターン先がNGOであるという点が、非常にユニークで貴重である。本制度を通じてSOMPOは着実に若い種をまいてくれている。環境林業省が実施している環境問題解決に貢献した個人や団体を表彰する「カルパタル賞」(Tree of Lifeを意味する)に、将来的に皆さんの中から受賞者が出てくれることを大いに期待している」との激励の言葉をいただきました。

#### インドネシアNGO・参加学生数 (2024年2月～)

	NGO名	人数
1	Benua Lestari Indonesia	2
2	Biocert Indonesia	2
3	Borneo Orangutan Survival Foundation (BOSF)	2
4	Burung Indonesia	2
5	Detara Foundation	3
6	Forum Komunikasi Kehutanan Masyarakat (FKKM)	2
7	Association for Community and Ecology-Based Law Reform (HuMa)	3
8	Jaingan Kerja Pemetaan Partecipatif (JKPP)	3
9	Yayasan Konservasi Ekosistem Alam Nusantara	2
10	Perkumpulan Sawit Watch	2
11	Yayasan Inisiasi Alam Rehabilitasi Indonesia (YIARI)	2
	インドネシア計	25

#### (2) CSOによる人材育成事業等への助成 (2024年3月1日現在)

(単位:万円)

	団体名	プロジェクト名	実績
1	日本環境教育フォーラム	清里ミーティング2023	20
2	東京ボランティア・市民活動センター	市民社会をつくるボランティアフォーラムTOKYO2024	3
	合計		23

## 2. 環境保全に関する情報の収集及び提供並びに啓発普及

### (1) 「市民のための環境公開講座」の開催

当財団と公益社団法人日本環境教育フォーラム・SOMPO ホールディングス株式会社の三者共催で開講している本講座は、今年度で31年目を迎えました。引き続き無料のオンラインセミナーとして実施いたしました。

今年度の講座のテーマは「Re-Style—新しい“ゆたかな”暮らしをつくる9つの視点—」とし、

参加者が地球上の多くの課題を理解し、さまざまな切り口から新しい“ゆたかな”暮らしを考え、具体的に行動をすることを旨とした実践的な講座提供を心掛けました。

本年度の通常講座の申込者数は12,576名（前年7,480名）となり、前年よりも約2倍となりました。年間ライブ受講者数は、2,778名（前年2,968名）と前年よりは増加はしなかったものの、録画視聴は4,100名（前年3,834名）と増加しております。ただし、申込者数の伸びに比して、ライブ受講者および録画視聴者の合計数が伸びていないという課題を残しました。

視聴者からは「時間、場所を問わず視聴できるのでありがたい」、「録画を繰り返し見ることによって理解が深まる」、「多様なテーマ、講師で楽しく学びを深めることができた」などの意見が多数寄せられました。

「認識から行動へ」を講座テーマに掲げている中、受講後アンケートで「何らかの環境行動をしたい」と回答した割合は、全講座平均で79%となり、昨年に引き続き下がりましたが、オンライン講座も4年目となり、参加者の多くは既に行動をしているため数値が下がっている可能性もあるため、次年度は講座の推奨値などの項目の導入も検討していく予定です。

また今年度は、通常講座の前により多くの方に本講座に関心をもち、参加をいただけるようオープニング特別講座として、6月23日に一般社団法人エシカル協会代表理事 末吉里花さんとお笑い芸人（ココリコ） 田中直樹さんを講師にお迎えし、サステナブル・トークイベント「新しい“ゆたかな”暮らしを考える」と題して開催しました。ライブ参加および録画視聴あわせ1021人（前年362人）が視聴し、通常講座とは異なる視点を提供することができました。

次年度についても、場所、時間を問わずに学ぶ機会を提供するため、引き続きオンライン形式で開催することを予定しています。気候変動、生物多様性、エネルギーなどをはじめ身近な生活に係ることなど、様々な切り口で専門家、実践者、企業などの多様な講師を招き、世代を問わず学び、行動を変えていく講座を提供して参ります。

<受講者の状況>

2023年度			申込者数	13,761名
通常講座	特別講座		ライブ参加者	3,192名
申込者数	12,576名	1,194名	録画視聴者数	4,707名
参加者数	2,778名	414名		
録画視聴者数	4,100名	607名		

2022年度			申込者数	7,833名
通常講座	特別講座		ライブ参加者	3,062名
申込者数	7,480名	353名	録画視聴者数	4,084名
参加者数	2,968名	94名		
録画視聴者数	3,816名	268名		

2021年度						申込者数	6,127名
パート1	パート2	パート3	特別講座	特別講座		ライブ参加者	2,697名
申込者数	2,275名	1,712名	1,794名	346名	-	録画視聴者数	3,059名
延べ参加者数 (各パート3回実施)	1,335名	753名	586名	23名	-		
録画視聴者数	1,058名	772名	1,021名	208名	-		

※録画視聴数にはライブ参加との重複を含む

※2023年度の録画視聴者数は録画配信システムの不具合により一部期間（7月6日～7月14日の9日間）の視聴履歴が取れていないため実際の視聴者数と異なる

<通常講座の内容>

\* 敬称略

		テーマ	講師	
1	2023年7月5日	気候変動と水問題	芝浦工業大学 工学部 土木工学科 教授	平林 由希子
2	2023年7月19日	エネルギーの未来を考える	東京工業大学環境・社会理工学院 准教授	分山 達也
3	2023年8月2日	その自然には、物語がある ～国立公園で目指す上質なツーリズム～	環境省 国立公園課国立公園利用推進室長	岡野 隆宏
4	2023年9月6日	日本の森って、どんな森？ ～所有と利用と、その先へ	私の森.jp編集長/グラム・デザイン代表 /(-財)ハヤチネンダ理事	赤池 円
5	2023年9月13日	いまだ聞けない自然資本・生物多様性 : 保全、利用の現場と国際交渉の最前線	東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授	香坂 玲
6	2023年10月4日	レストランから始めるネイチャーポジティブ 生物多様性に配慮した持続的なお米の仕入れの取り組み	びっくりドンキーチェーン運営本部 株式会社アレフ エコチーム	荒木 洋美
7	2023年10月18日	次世代に豊かな海洋資源を引き継ぐためのテクノロジーと サステナブルシーフード	ウミロン株式会社 共同創業者・プレジデント	山田 雅彦
8	2023年11月1日	カポックノットと共に学ぶ、社会性と事業性を両立する ソーシャルビジネスの在り方とは	KAPOK JAPAN株式会社 代表取締役	深井 喜翔
9	2023年11月15日	コロナ後のもうひとつの生き方 ～土着のフォークロアを探る、ちいさな自給自足のくらしがしごと	山岳民族みたいに生きるための 服づくりをする布作家	早川 ユミ

### < 特別講座の内容 >

実施日	テーマ	講師
2023年6月23日	末吉里花さん×田中直樹さん サステナブル・トークイベント 「新しい“ゆたかな”暮らしを考える」	一般社団法人エシカル協会代表理事 末吉 里花 氏 お笑い芸人(ココリコ) 田中 直樹 氏

### (2) 各種シンポジウム・研究会への協賛 (2024年3月1日現在)

(単位:万円)

団体名	プロジェクト名	実績
1 新宿環境活動ネット	2023年度新宿区『みどりの小道』環境日記コンテスト	11
2 環境文明21	2023年度経営者「環境力」大賞	10
3 地球温暖化防止全国ネット	脱炭素チャレンジカップ2024	30
	合計	51

### 3. 環境保全のための活動に従事する団体及び個人に対する助成 「環境保全プロジェクト助成」

環境保全に取り組むCSOの活動を支援するため、毎年実施しており、今年で21回目となります。助成団体のセミナー等の機会を利用して積極的に募集を行ったところ、53件(前年53件)の多数の応募がありました。12月4日開催の認定委員会において厳正な審査を行い、下記10件を選定し、合計199万円を助成しました。

(単位:万円)

No.	団体名	所在地	プロジェクト名	実績
1	間伐ボランティア 札幌ウッディーズ	北海道	森林保全活動の広報充実で興味と理解を促進	20
2	NPO法人本州産クマゲラ研究会	岩手県	絶滅に瀕する本州産クマゲラ個体群の生息・生態調査及びその研究並びに写真集「絶滅に瀕する本州産クマゲラ」の出版・刊行	20
3	NPO法人環境とくしまネットワーク	徳島県	「脱過疎+脱炭素」に向け、災害時に強いしくみづくり -地エネ活用+モビリティEV実証	19.9
4	特定非営利活動法人ラブ・ネイチャーズ	静岡県	奥浜名湖の貴重な自然・生き物に寄り添う。	20
5	小幡緑地 水生園を育む会	愛知県	ササユリ、オワリサンショウウオなど絶滅危惧種・希少種の保全・保護・調査	20
6	たましま干潟と鳥の会	岡山県	玉島周辺の干潟の生態系を知ろう！守ろう！ そして未来へつなげよう！！	20
7	NPO法人霞ヶ浦アカデミー	茨城県	霞ヶ浦の葦原整備をスポーツにする「葦舟プロジェクト」	20
8	チーム御前浜・香櫛園浜 里浜づくり	兵庫県	御前浜をみんなの宝”里浜”として、まもり、つかい、そだてる	19.9
9	NPO法人クリーンオーシャンアンサンブル	香川県	海洋ごみの再資源化プロジェクト	20
10	NPO法人もりメイト倶楽部Hiroshima	広島県	“わくわくもりの学校”こども森林ボランティア養成講座 「もりメイトキッズ」	20
助成金				199

#### 4. 環境保全に係わる学術研究に対する助成

##### 「学術研究助成」

本助成制度は、環境をテーマとする意欲に満ちた優秀な若手研究者を支援するため、2001年からスタートしており、これまで107名の研究者を支援しています。23回目となる今年は、23件の応募の中から（昨年度14件）、7月24日の選考委員会において、新たに5件が助成先として選考されました。

(単位万円)

	申請者	所属大学院名	研究テーマ	実績
1	原田 喜一	京都府立大学大学院 森林計画学研究室	ドローンレーザーを用いた立木強度推定	30
2	中田 秀樹	京都大学大学院 エネルギー科学研究科 エネルギー社会・環境学専攻 エネルギー経済分野	定量的地域特性を踏まえた営農型太陽光発電ゾーニング・経済性評価	30
3	楊 心悦 (ヨウ シンエツ)	早稲田大学大学院 経済学研究科	インセンティブ型のデマンド・レスポンスが家庭節電行動に与える影響—節電プログラムの実践に基づいて—	30
4	張 喬 (チョウ キョウ)	宇都宮大学国際学研究科 国際学研究専攻 高橋若菜(環境と国際協力)研究室	日中における環境パートナーシップに関する一考察—地方都市におけるプラごみの削減取組を事例として	29
5	深川 美奈	東京大学大学院 農学生命科学研究科 農学国際専攻 国際水産開発学研究室	持続可能な水産物消費への影響: 成人期における漁業体験の効果	30
助成金合計				149

## 5. その他の事業

### ①「脱炭素チャレンジカップ2024」への協力

昨年度に引き続き、次世代に向けた脱炭素社会を構築するための、全国各地から選ばれた取り組みを共有し顕彰する「脱炭素チャレンジカップ2024」（主催：地球温暖化防止全国ネット）への協力を行いました。12月14日、事務局長が審査委員として審査会に出席し、2月6日に開催された表彰式で「SOMPO環境財団わくわく未来賞」として香川県三豊市立下高瀬小学校「STOP地球温暖化～もったいない・ありがとう・楽しく～」の取り組みを表彰しました。

### ②2023年度新宿区「みどりの小道」環境日記コンテストへの協力

新宿区が開催する、小学生を対象とした「みどりの小道」環境日記コンテストに協力を行いました。12月26日、財団賞として「SOMPO環境財団わくわくエコの環賞」の表彰式をオンラインで開催しました。5名に対して表彰状を授与し記念座談会も行いました。

### ③財団活動の外部への発信

財団活動の外部発信のため、今年度も「環境財団ニュース」の発行を行いました。3月までに第21号（7月）、第22号（10月）、第23号（2月）を発行し、寄付者、行政機関、CSO、学生、関係者等に送付しました。今後も定期的に情報発信ツールとして活用してまいります。財団ブログでは、CSOラーニングの活動の様子、市民のための環境公開講座の内容等、最新の活動情報を発信しました。

また、2023年度新たに、約10億人が登録をしている世界最大級のビジネス特化型SNS「LinkedIn」を活用し、SOMPOホールディングスから、インドネシアでのCSOラーニング制度をはじめとする活動情報を国内外へ発信を開始しました。

### ④社外評価

社外表彰制度への応募を行い、これまでの財団事業の取組みが評価をされ受賞をしました。

#### ・「気候変動アクション環境大臣表彰」普及・啓発部門（環境省主催）

「市民のための環境公開講座およびインドネシアでのCSOラーニング制度による気候変動への取組み」で受賞をしました。30年以上にわたり、気候変動をはじめとする環境課題の理解促進、行動を促す講座を提供していることや、インドネシアでの環境人材育成の取組みによる国際貢献が評価をされました。

#### ・「持続可能な社会づくり活動表彰」ESD活動賞（環境生活文化機構主催）

「CSOラーニング制度におけるユース世代の環境教育」で受賞しました。23年に渡る大学生・大学院生の環境インターンシッププログラムの提供による環境人材の育成や1200名を超える修了生を輩出し、行政や企業、NPOなど多様な分野で活躍をしている点が評価をされました。



## 6. その他の特記事項

### ①内閣府への届出

2023年6月23日、2022年度の事業報告等の提出を行いました。

2023年7月6日、評議員の変更届け出を行いました。

2024年3月26日、2024年度の事業計画の届け出を行いました。

### ②資産運用について

基本財産について資産運用規定に従い下記1件の債券を購入いたしました。

愛知県令和2年第7回公募公債（期間10年・残存7年）9913万円（2023年7月）

## II 庶務の概要（2023年4月1日～2024年3月31日）

### 1. 役員に関する事項

役員等の氏名は次の通りです。（常勤者に「常勤」表示） \*2024年3月31日現在（50音順）

役職	氏名	備考
理事長	西澤 敬二	損害保険ジャパン株式会社 取締役会長
専務理事（常勤）	西脇 芳和	公益財団法人SOMPO環境財団 専務理事
理事	鮎川 ゆりか	千葉商科大学 名誉教授
理事	岡島 成行	公益社団法人日本環境教育フォーラム 会長
理事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長
理事	武内 和彦	公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）理事長
理事	森嶋 昭夫	名古屋大学 名誉教授・弁護士
理事	森本 英香	早稲田大学法学部 教授
監事	斎藤 昭一	公認会計士
監事	新里 智弘	公認会計士
評議員	井田 徹治	共同通信社 編集委員・論説委員
評議員	加藤 三郎	環境文明21 顧問
評議員	末吉 理花	一般社団法人エシカル協会 代表理事
評議員	杉崎 重光	元ゴールドマン・サックス証券株式会社 副会長
評議員	高村 ゆかり	東京大学未来ビジョン研究センター 教授
評議員	中野 悦子	オイスカ 理事長
評議員	平野 友輔	SOMPOホールディングス株式会社 サステナブル経営推進部長
評議員	藤中 麻里子	損害保険ジャパン株式会社 執行役員（CSu0 CC0）
評議員	三橋 規宏	千葉商科大学 名誉教授
評議員	涌井 洋治	公益財団法人アフィニス文化財団 理事長
評議員	鷺谷 いづみ	東京大学 名誉教授
認定委員	阿部 治	立教大学 名誉教授
認定委員	市川 博也	国際教養大学 名誉教授
認定委員	西脇 芳和	公益財団法人SOMPO環境財団 専務理事
認定委員	原 剛	早稲田大学環境塾 塾長、元早稲田大学大学院 教授
認定委員	福井 光彦	青森大学 特任教授
選考委員	大塚 直	早稲田大学 教授
選考委員	西脇 芳和	公益財団法人SOMPO環境財団 専務理事
選考委員	福渡 潔	SOMPOリスクマネジメント株式会社 執行役員サステナビリティ部長
選考委員	諸富 徹	京都大学大学院 教授

### 2. 職員等に関する事項

2024年3月31日現在の従業員は次の通りです。

区分	氏名	就業年月日	備考
事務局長	鈴木 順子	2022年4月1日	損害保険ジャパン(株)より出向
課長	瀬川 敬太	2021年4月1日	損害保険ジャパン(株)より出向
主事	齋藤 寛子	2017年4月1日	公益財団法人SOMPO環境財団職員

### 3. 役員会等に関する事項

#### ①理事会の開催

開催日	会議事項	結果
2023年6月6日 第1回通常理事会	第1号議案:2022年度事業報告および 決算承認の件 第2号議案:定時評議員会開催の件 報告事項1:理事長・専務理事の職務 執行状況の件	全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員了承
2024年3月14日 第2回通常理事会	報告事項1:2023年度事業報告の件 報告事項2:理事長・専務理事の職務 執行状況の件 第1号議案:2024年度事業計画および 収支予算の件 第2号議案:役員等賠償責任保険加入 の件	全員了承 全員了承 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決

#### ②評議員会の開催

開催日	会議事項	結果
2023年6月22日 定時評議員会	第1号議案:2022年度事業報告および 決算承認の件 第2号議案:任期満了に伴う評議員選 任の件 第3号議案:評議員退任の件 報告事項1:2023年度事業計画および 収支予算の件 報告事項2:規程の改定の件	全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員了承 全員承認

### 4. 許可、認可および承認に関する事項

該当はありません。

### 5. 寄付金等に関する事項

寄付の目的	寄付者	金額
財団の運用財産として	SOMPO ホールディングス株 式会社※	50,700,000 円
財団の運用財産として	SOMPO ちきゅう倶楽部社会 貢献ファンド (SOMPO グル ープ)	5,000,000 円
財団の運用財産として	法人	3,490,000 円
財団の運用財産として	個人	1,973,000 円

※損保ジャパンをはじめとする SOMPO グループ各社からによるもの

### 6. 主務官庁指示に関する事項

該当はありません。

## 7. その他の重要事項

該当はありません。

2023年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していません。